

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	声楽	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
	コンコーネ50番/全音楽譜出版社

1 科目の目標

- (1) 声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる。
③	主体的に学習に取り組む態度	音楽性豊かな表現を追求しようとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ ワークシート等への記述内容	アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

4 学習計画

月	単元名	学習内容	単元や題材など、内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	発声 基礎	正しい姿勢、呼吸法	姿勢や息の流れ、顔の表情や喉の開きを意識して歌うことができる	○		○
		発声練習	音楽表現のために必要な発声、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付ける。	○		○
5		コンコーネ50番より1～5	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感受する。	○		
	発声 課題①		表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
6		イタリア歌曲	独唱曲を原語で歌い、言葉のもつ響きを大切にしながら歌うことができる	○	○	○
			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	
7	鑑賞①	オペラ鑑賞	作品の生み出す特質や雰囲気などを感受し、その美しさや素晴らしさを創造的に味わって聴いている。			○
9	発声 課題②	コンコーネ50番 6～8	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感受する。	○		
	発声 課題③		表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
10		コンコーネ50番 9～13	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感受する。	○		
11			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
12	発声 課題④	コンコーネ50番 9～13	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感受する。	○		
	発声 課題⑤		表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
1		イタリア歌曲	独唱の学習を通し、声楽の専門的な知識と技能を習得し、楽曲の表現方法を学び、創造的に表現する。	○	○	○
			リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感受する。	○		
	合唱		表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
			日本語の美しさに触れ、豊かに表現する。	○	○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	演出研究	2	3	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
担当者による	

科目の目標
舞台芸術の理解を深め、演目ごとの演出の違いを確認し、知識・技術の習得を目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	作品を通して演出の特徴を理解し、各単元において必要となる技能を学び活用する。
② 思考・判断・表現	演目の設定を判断し、状況に応じた表現方法を習得する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	舞台芸術に関心を持ち、各分野の事象の考察に活用しようとする。
評価方法	
レポート提出・実技及び授業中の活動の様子を総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	演出研究①	演出の働き	台詞や動作を実演し、「演出とはどういうものか」を考える。	○		○
5	演出研究②	演出による表現の差異について	①異なる演出家による同一作品を研究し、演出の役割を理解する。	○	○	○
6			②様々なタイプの作品を研究し、演出の役割を理解する。			
7						
9	演出研究③	異なるジャンルの演出法	①歌舞伎・ミュージカル演出の特徴を理解する。	○	○	○
10			②新劇の演出の特徴を理解する。			
11			③小劇場・現代劇の演出の特徴を理解する。			
12						
1	演出研究④	演出法の実践	舞台での表現を実践し、演出方法を理解する。	○	○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	課題研究	4	3	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
担当者による	

科目の目標
舞台芸術の理解を深め、各分野での課題を設定し、知識・技術の習得をめざす。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	訓練を通じて表現法を理解し、様々な分野の脚本に対し、活用できる。
② 思考・判断・表現	演目の設定を判断し、状況に応じた表現方法を習得する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	舞台芸術全般に関心を持ち、各分野でより効果的な表現方法を探っていく。
評価方法	
実技及び授業中の活動の様子を総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	課題研究①	①舞台構造	舞台表現一般について、分野ごとの特徴を理解する。			
5		②演技の基礎	発声・身体訓練の強化	○	○	○
6		③スタッフ業務	脚本選定			
7			スタッフの業務と受講生の役割分担			
9	課題研究②	選定した脚本を用いての実践	作品稽古を開始し、校内発表の実施			
10			発声・身体訓練の強化	○	○	○
11			スタッフの業務の開始			
12						
1	課題研究③	芸術発表会	舞台運営の実践	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
『Joy of Music』教育芸術社	なし

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ ワークシート等への記述内容	エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

4 学習計画

時期		題材名	領域	項目	題材の学習目標	教材	評価の観点 (特に重視するものに○)		
							①	②	③
一学期	4 5 6	美しく歌おう	表現	歌唱	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	合唱曲 他	○	○	○
	7	感情を音楽で表現する方法を比較しながら音楽の良さや美しさを味わおう	鑑賞		①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ③主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	歌劇について	○	○	
二学期	9	器楽表現に必要な奏法技能を身に付けよう	表現	器楽	ヴァイオリン ①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現のために必要な、体の使い方を理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ヴァイオリンの表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	「カノン」 「きらきら星」 「歓喜の歌」他	○	○	
	10 11 12	声の特徴を生かした表現を考えよう	表現	歌唱・創作	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	○
		器楽表現に必要な奏法技能を身に付けよう	表現	器楽	ミュージックベル ①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現のために必要な、体の使い方を理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ヴァイオリンの表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	クリスマスソング 「もろびとこぞりて」 「もみのき」 「サンタが街にやってくる」他	○	○	○
三学期	1 2	旋律を美しく歌おう	表現	歌唱	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	合唱曲 卒業ソング	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	器楽	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
なし	なし

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①		知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②		思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③		主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取り組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ 提出物の内容		アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

4 学習計画

時期		題材名	学習内容		題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
						①	②	③
1 学期	4 5	課題① 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。		○	○	○
		課題② 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。		○	○	○
	6 7	課題③ 試験曲の練習	選択した楽曲の演奏練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。		○	○	○
		課題④ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。		○	○	○
2・3 学期	9 10	課題⑤ 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。		○	○	○
		課題⑥ 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。		○	○	○
	11 12 1	課題⑦ 試験曲の練習	選択した楽曲の演奏練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え表現する。 正確な指づかい、適切なテンポで演奏することを心がけ練習する。		○	○	○
		課題⑧ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。		○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	保育器楽	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
なし	バイエルピアノ教則本／音楽之友社

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①		知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②		思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③		主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ 提出物の内容		アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

4 学習計画

時期		題材名	学習内容	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
					①	②	③
4		課題① バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
5		課題② ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
6 7		課題③ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
9 10		課題④ バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
		課題⑤ ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
11 12		課題⑥ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
1		課題⑧ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして演奏する。	○	○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	書表現	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
「書き込み式 筆ペン字練習帳」 (成美堂出版)	資料プリント

科目の目標
小筆（毛筆）を用いて、生活の中の実用的な書に関する知識や技術を身につけ、書写能力の向上を図る。また、文字を使用した幅広い表現、篆刻・刻字等の諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現及び鑑賞の能力を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な知識と表現の技能を身に付け表している。
② 思考・判断・表現	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	
ア 練習帳 オ 授業に取り組む姿勢	イ 作品 ウ 実技(小)テスト エ 提出物の内容 などをもとに総合的に評価する。

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	入門 実用書（小筆）	筆の使い方 漢字	・ 道具の使い方を知る ・ 漢字の学習（楷書）			
5	篆刻 姓名印の制作	別途資料用意	・ 篆書と篆刻について理解する ・ 刀法を理解する ・ 落款と印について学ぶ	○	○	○
6	商業デザイン	別途資料用意	・ うちわをデザインする ・ 太筆の使い方を理解する			
7	実用書（小筆）	名前	・ 自分の名前と住所を正しく書く			
9	はがき 慶弔の表書き	はがきの表書き のし袋	・ はがきの書式を理解する ・ 祝儀・不祝儀の書式を理解する	○	○	○
10	創作	別途資料用意	・ 創作することの意義を知る ・ 課題を設定し作品をまとめる			
11	刻字／ 鑑賞・原稿制作	別途資料用意	・ 現代作家の作品を鑑賞し、表現方法を理解する ・ 原稿を制作する ・ 刀法を理解する（彫刻刀） ・ 陰刻・陽刻について知る	○	○	○
12	木刻					
1	刻字／着色		・ 着色し仕上げる			

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	絵画	2	3	m②

使用教科書	副教材等
なし	なし

科目の目標

表現技法をはじめとする絵画についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。いろいろな表現形式による絵画表現に関する学習を通して、表現と鑑賞の能力を高める。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	美術文化を尊重し、主体的、創造的に絵画的表現の学習に取り組もうとする。
② 思考・判断・表現	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術作品や美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的に絵画表現のよさを味わっている。

評価方法

ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ
ウ ワークシート等への記述、プレゼンテーション内容 エ 提出物の内容

アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画

月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	デッサン	表現	絵画	・デッサンの基礎について学び、光や陰影、面などを把握し形態を表現する。 ・モチーフの質感や存在感を観察し、ハッチング等で表現することができる。	○		
5	鑑賞	鑑賞		・モチーフを観察し、その形態を理解して表現を追究しようとしている。		○	○
5	モダンテクニック演習	表現	絵画	・スパッタリングや垂らし込み等の技法を学習し、工夫して絵の具を扱うことができるようになる。 ・偶発的な表現方法を追求するために主体的に活動している。	○		
6	鑑賞	鑑賞		・表現のよさを感じ取り、制作を通じて生徒自身の個性を発見することに興味を持ち、考えを深めようとしている。		○	○
9	卒業制作（大作）	表現	絵画	・今までに学習した技法を用いて制作をすることができる。 ・画家の作風や技法などを自由に選び、独自の作品として表現することができる。	○		
10	鑑賞	鑑賞		・制作を通じて生徒自身の個性を発見することに興味を持ち、考えを深めようとしている。		○	○
11							
12	古典技法演習	表現	絵画	・古典表現に関心を持ち、その表現方法やの工夫などを学ぶ。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。	○		
1	鑑賞	鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・作者の表現の意図や主張について考えることができる。		○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3	I②

使用教科書	副教材等
「高校生の美術3」（日本文教出版）	なし

科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

評価方法

ア 授業への取り組み等の行動観察
ウ ワークシート等への記述内容

イ 制作作品、アイデアスケッチ
エ 提出物の内容

アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画

月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	クロッキー	表現	絵画	・形態や量感、質感を短時間で捉えることができる。	○	○	○
4 5	ファブリックデザイン (シルクスクリーン印刷)	表現	彫刻	・「生命のかたち」をテーマに、主体的に主題を生成できる。 ・形態や量感、質感を意識して創造的な表現の構想を練ることができる。 ・材料や用具の特性を生かして表現を追求できる。	○		
	鑑賞		鑑賞	・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○
6 7	プロダクトデザイン		鑑賞	・鑑賞から社会とデザインの関係について理解し、自作品に素材や要素を取り入れてアイディアを考えることができる。			
	鑑賞	表現	デザイン	・用途や構造、強度など着目し、機能と調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取ることができる。	○	○	○
9 10	彫刻	表現	彫刻	・これまでの美術学習で認識してきた作品に関心を持ち、新鮮な視点で対象を捉え直し表現することができる。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。	○		
	鑑賞		鑑賞	・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張、体系的に考える鑑賞活動に取り組むことができる。		○	○
10 11 12	大作 (卒業制作)	表現	絵画	・絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の分野から選択し、計画を立て制作に取り組む。作品のテーマは自由。 ・主題を効果的に表現するための構想を練ることができる。 ・材料や道具の特性を生かして表現を追求できる。	○		
	プレゼンテーション		鑑賞	・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○
1 2	ロゴデザイン	表現	デザイン	・テーマに沿った形体や色彩、文字を考え、バランスよく配置することができる。 ・分かりやすさや美しさに着目し、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、表現方法を追求して創造的に表す。	○		
	鑑賞		鑑賞	・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張について考える鑑賞活動に取り組むことができる。		○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科		美術	科目	絵画(保育)		単位数	2	
教科書 副教材								
学習目標		いろいろな表現形式による絵画表現に関する学習を通して、表現と鑑賞の能力を高める。						
学習内容		様々な描画材料を使用した絵画制作等、鑑賞						
評価の観点		①美術への関心・意欲・態度・・・美術文化を尊重し、主体的、創造的に絵画表現の学習に取り組もうとする。 ②発想や構想の能力・・・感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、絵画表現のよさや美しさなどを考え、創造的で個性豊かな表現の構想を練っている。 ③創造的な技能・・・創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。 ④鑑賞の能力・・・美術作品や美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じる。						
評価方法		評価項目と観点（例）	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力		
		作品	○	○	○			
		アイディアスケッチ	○	○				
		学習に取り組む姿勢	○	○	○	○		
		ファイルの記録	○	○				
		作品鑑賞レポート	○			○		
学期	月	内容	到達目標			備考		
Ⅰ	4	保育絵画について	・1年間の授業内容の流れを知る。			オリエンテーション		
	5	キャラクターイラストレーション	・イラストレーションの基礎を学び、理解する。 ・様々な画材を使用した表現技法を学び、理解する。 ・社会におけるキャラクターイラストレーションの効果を理解し、対象を意識した主題を生成する。 ・描画材用や表現技法の効果を生かし、表現を追求する。					
	6							
	7							
	鑑賞	・表現の意図や画材の工夫などを感じ取り、深く味わう。						
Ⅱ	9	仕掛け絵本制作	・絵本の作りや、絵本の種類について学び、理解する。 ・キャラクターの特性を生かして主題を生成し、ストーリーボードを作成し、物語の構想を練る。					
	10		・物語を効果的に伝えるために、視覚的な表現や仕掛けを工夫する。					
	11							
	12		・本の構造や組み立てについて学び、理解する。					
Ⅲ	1		・材料の特性を生かして、丁寧に製本する。 ・作品のよさや表現の工夫を感じ取る。					
	鑑賞							

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	ビジュアルデザイン	2	3	32HR・34HR・35HR

使用教科書	副教材等
デザインを学ぶ1 (エムディエヌコーポレーション)	なし

科目の目標
視覚的な伝達効果を主とするデザインについての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	美術文化を尊重し、主体的、創造的に視覚デザインの学習に取り組もうとする。
② 思考・判断・表現	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術作品や美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的に視覚デザインのよさを味わっている。
評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述、プレゼンテーション内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	色彩の基礎 ピクトグラムデザイン	表現	デザイン	・色彩の基礎について学び、その効果について理解し、制作に取り入れる。 ・学校内で使用するピクトグラムをテーマに、デザインが果たす役割や責任を意識して創造的な表現の構想を練る。 ・平塗技法で完成作品の状態を意識して制作する。	○		
5	プレゼンテーション	鑑賞		・デザインの調和のとれた美しさや良さを感じ取り、制作者の表現の意図と創造的な工夫について見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組むことができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○
6	アイコンデザイン	表現	デザイン	・色彩効果とメッセージ性があるデザインを意識して図案を練ることができる。 ・タブレット端末を使用して、図案をデジタル作成することができる。	○		
7	プレゼンテーション	鑑賞		・色彩の基礎を意識したことを読み取ることができる。 ・感情や感覚を表現する形について、創造的に構想を練ることができる。		○	○
9	ブランディングデザイン	表現	デザイン	・普段の生活の中で、あったら便利な製品を考え、目的や機能などを考えた発想や構想を模型や図で表現することができる。 ・対象となる製品は文具や日用品、家具や乗り物など自由に選ぶ。架空の企業を立ち上げ、製品のネーミングやロゴ、パッケージのデザインができる。	○		
10						○	○
11		鑑賞		・目的や条件などを基に、伝えたい情報をグラフやイラストなどで効果的にプレゼンテーション、主体的に取り組もうとしている。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。			
12	プレゼンテーション						
12	色面構成	表現	デザイン	・形や明暗、構造などの造形的な特徴を基に、色面で捉えることを理解して分割ができる。 ・感じたことや考えたことから作品のイメージや表現方法を練ることができる。	○		
1	鑑賞	鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・ユーモアや絵巻物ならではの表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張について考え、諸活動に取り組むことができる。		○	○

令和6年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	素描	2	2	文n

使用教科書	副教材等
イチバン親切なデッサンの教科書	なし

科目の目標

造形表現の基礎となる観察力や把握力を深め、形体や空間などの的確な表現力を高めることを目指す。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	対象を丁寧に観察し、主体的、創造的にデッサンの学習に取り組もうとする。
② 思考・判断・表現	写実的な表現活動をするために必要な描写や専門的な技能を身に付け、図法や技法、表現方法等を工夫して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	形体や明暗、量感などについて理解を深め、感性を働かせて価値や美意識を感じ取り、完成された美のよさを味わっている。

評価方法

ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ
ウ ワークシート等への記述、プレゼンテーション内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画

月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・素描の学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	画材について スケッチ、グレースケール 基礎形体デッサン 身近な静物	表現	素描	・鉛筆表現の基礎について学び、その効果について理解し明暗表現することができる。 ・明暗や質感、量感を感じ取り、鉛筆や木炭表現で写実的に表現することができる。	○		
5		鑑賞				○	○
6				・表現の工夫や作者の技法を感じ取ることができる。			
7							
9	石膏デッサン	表現	素描	・モチーフの明暗や質感、量感を感じ取り、鉛筆で表現することができる。	○		
10		鑑賞				○	○
11							
12				・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。			
1							